

## 【事業背景】パレスチナ自治区：ガザ地区

10km ×40km 四方の小さな土地であるパレスチナ・ガザ地区（以下「ガザ」）は、本来は地中海に面し穏やかな気候に恵まれた豊かな地域です。しかし度重なるイスラエルからの軍事侵攻と封鎖の継続により、現地経済は壊滅的被害を受け、現在では人口170万のうち7割の人が国際援助物資に頼らなければ生活できない状況にあります。2010年の国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）発表統計によると、ガザの失業率は45パーセントを超え、安定的に食料を得られる人は全体の3分の1にすぎません。このような中、人々は肉や魚など高価なたんぱく質食品の購入を控え、比較的安価で安定的に手に入る小麦粉、砂糖、脂分を含む食事に切り替えて状況に対応してきました。

しかしその結果、慢性的な貧血、微量栄養素不足に伴う疾病が蔓延し、現在では5歳以下の子どもの4割以上が貧血・栄養失調に陥っているとされています（2009年WHO 世界保健機構）。鉄分、ビタミンをはじめとした微量栄養素の不足は、身体、運動能力、精神、行動、認知、言語における子どもたちの成長と発達を妨げ、免疫能力をも低下させています。また、このような貧血と栄養失調の増加は、見た目には分かりにくいこともあり、「見えない飢餓」ともいわれ、母親や近隣住民が問題に気づかない場合も多くあります。

こうした状況を緩和・改善するために、日本国際ボランティアセンター（JVC）は、2006年以降ガザの子どもを対象にした食糧支援や、栄養失調予防のための教育関連事業を行っています。またJVCが2013年度から事業を実施している、ガザ北部ジャバリヤ市ビルナー ज्याでは、独自調査の結果、他の地域に比べて子どもたちの健康状態が悪く、母親たちの子どもの健康・保健に関する知識も低いことが明らかとなっています。カトリックさいたま教区からは、2013年度ガザ事業のために50万円のご寄附を頂いております。

## 【日本国際ボランティアセンター（JVC）紹介】

アジア、アフリカ農村地域での環境保全型の農業を通じた暮らしの改善に協力するほか、紛争の影響下にある国々では、医療をはじめとした人道支援を行っている。現在では、カンボジア、ラオス、タイ、南アフリカ、スーダン、コリア、パレスチナ、アフガニスタン、イラクの9か国、東日本大震災復興支援として国内で1か所の支援を行っている。

またシンポジウムなどのイベントや、書籍・提言書の発行などを通し、現場の声を政府や社会に届ける政策提言・アドボカシーの活動にも力を入れている。これらは活動の3つの柱である「暮らしを支える地域開発」、「命を守る人道支援」、「政策を変える政策提言」に基づいている。足りないものをあげるのではなく、つくる方法を一緒に考える。紛争で傷ついた人を助けるだけではなく、紛争を起こさない道をつくる。「問題の根本にこだわる」。この思いがJVCの活動を貫いている。

〒110-8605 東京都台東区上野5-3-4  
クリエイティブOne 秋葉原ビル6F  
TEL : 03-3834-2388 FAX : 03-3835-0519  
E-mail : info@ngo-jvc.net

